

新規就農者による取組事例 〔長崎県松浦市〕

1. 地域農業の状況

- 松浦市は、長崎県本土の北端に位置し、北は伊万里湾、他の三方は佐世保市、平戸市、佐賀県伊万里市と接している、風光明媚な地域。



- 主要作物としては、「松浦メロン」や「御厨ぶどう」をはじめ米やアスパラガス、ブロッコリー、スナップエンドウなどの栽培が盛んである。
- 担い手不足及び農産物価格の下落により、農業従事者及び生産額が減少している。松浦市の耕地面積は2,280ha（平成26年耕地及び面積統計）であり、耕作放棄地面積は540ha（平成22年農林業センサス）となっている。
- 本件の取組が行われた農地は、農地（水田）が狭く、機械利用に不便なため耕作放棄されていた。

耕地面積	2014年	2,280ha
田耕地面積	2014年	1,410ha
畑耕地面積	2014年	871ha
総農家数	2010年	1,617戸
自給的農家数	2010年	445戸
販売農家数	2010年	1,172戸

資料：耕地面積統計、農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	新規就農者	地区名	いまふくちようきためん 今福町北免第2地区
再生面積	0.37ha（経営面積0.37ha）	取組年次	平成25年
作付作物	アスパラガス	販路	JAへ出荷

（1）新規就農者の概要

- 福岡県出身で小学校4年まで長崎市で生活。第1子の誕生を契機に子供に安全な食べ物を与えたい、自然の中で育てたいとの希望があり、愛知県から生まれ故郷である九州への移住を決意。松浦市へ転入して就農へと至る。

（2）事業活用までの経緯

- Iターンで松浦市に移住（平成24年8月）。公共職業訓練「農業科」の研修を1年間受講し、翌年には認定農業者となった。営農開始に向けて、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し基盤整備及びビニールハウスの設置を行った。

（3）事業活用後の状況

- アスパラガスを3月末に定植し、10月上旬からJAに出荷を開始。生育は順調であり、多い日には約10kgを出荷している。

（4）今後の課題

- 経営を安定させるため、ビニールハウス面積を現在の15aから30aに拡充させたいが、土地の確保や規模拡大に伴う資金の確保が課題となっている。



活用した支援策

- H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（施設等補完整備）
- H25 耕作放棄地解消総合対策事業（県）
- H25 耕作放棄地解消総合対策事業（市）
- H25 新規就農促進基盤整備支援事業（県）（受益者負担相当額を助成）